

- 問1 インドやブラジルなどの新興国において、日本やドイツなどの外国企業が現地で直接、乗用車の生産を行う主な理由として適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 新興国では労働賃金が日本などの先進国よりも極めて高いため、より高価な製品を製造・販売できるから。 | 2. 先進国では自動車の需要が完全になくなったため、すべての生産拠点を新興国に移転する必要があるため。 | 3. 国際連合の環境協定により、先進国国内での自動車生産台数が一律で厳しく制限されているため。 | 4. 経済成長に伴い拡大する現地の市場で製品を効率よく販売し、輸送費などのコストも削減するため。 |
|---|---|---|--|
- 問2 中国における農業の特色について、北東部から中東部にかけての比較的降水量の少ない地域で、主食の原料として盛んに生産されている農作物を答えなさい。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|-------|------|---------|
| 1. 米 | 2. 小麦 | 3. 茶 | 4. 天然ゴム |
|------|-------|------|---------|
- 問3 東南アジア諸国のうち、インドネシアなどの資源産出国の輸出構造について、1980年と2015年の統計情報を比較した記述として正しいものはどれですか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 輸出総額に占める工業製品の割合が低下し、代わりに小麦や大豆などの農産物が輸出の大部分を占めるようになった。 | 2. 自動車の生産と輸出が急増した結果、農産物や鉱産資源の輸出割合がほぼゼロになり、完全な工業化を達成した。 | 3. 天然ガスの輸出割合が約半分を占めるなど資源輸出の重要性は残るが、機械類などの工業製品の割合も着実に高まっている。 | 4. 石油の輸出割合が輸出総額の半分以上を占めるようになり、資源エネルギーへの依存度が1980年当時よりも極めて高くなった。 |
|--|--|---|--|
- 問4 マレーシアでは近年、輸出総額に占める工業製品の割合が急激に高まっています。1980年代には原油や天然ゴムの輸出が経済を支えていましたが、現在では機械類が最大の輸出品目となっています。このような変化が起こった背景や特徴についての説明として、正しいものはどれですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 国内の鉱産資源がすべて枯渇したため、工業製品以外に輸出できる品目がなくなった。 | 2. 外国企業の工場を誘致するなどして、付加価値の高い製品を輸出できるようになった。 | 3. 天然ゴムの国際価格が暴落したため、国全体で工業製品の輸出総額を10倍に増やす法律を制定した。 | 4. 農業に従事する人々が全くいなくなったため、伝統的な原材料輸出が完全に途絶えた。 |
|--|--|---|--|
- 問5 アラブ首長国連邦（UAE）など、世界一高いビルであるブルジュ・ハリファが位置する西アジアの国々において、歴史的に人々の文化や生活様式の基盤となっており、最も多くの人々に信仰されている宗教はどれですか。 (2022年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|----------|-----------|----------|
| 1. 仏教 | 2. キリスト教 | 3. ヒンドゥー教 | 4. イスラム教 |
|-------|----------|-----------|----------|
- 問6 中国では1950年代以降、人口が急激に増加し、食料供給や生活水準の向上を妨げる要因となりました。この人口爆発を抑制するため、1979年頃から一組の夫婦に子どもを一人に限ることを基本として導入された政策は何ですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-----------|----------|-----------|
| 1. 多子化奨励政策 | 2. 一人っ子政策 | 3. 家族計画法 | 4. 人口分散政策 |
|------------|-----------|----------|-----------|
- 問7 アジアの国々の中でも、1985年時点では181社であった日本企業の進出数が、2013年には1,127社へと急増している国があります。この国における平均賃金が、日本やアメリカ、オーストラリアなどの先進国と比較して極めて低水準であるという経済的背景をふまえ、該当する国名を答えなさい。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-----------|------------|---------|
| 1. インド | 2. シンガポール | 3. サウジアラビア | 4. 大韓民国 |
|--------|-----------|------------|---------|
- 問8 1980年の韓国の総輸出額は約181億ドルでしたが、2018年には6000億ドルを超え、30倍以上に拡大しています。このような経済発展の背景と特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 広大な国土で生産される小麦や大豆などの穀物輸出が、総輸出額の飛躍的な増加に最も大きく寄与した。 | 2. 1980年代から一貫して輸出額が減少し続けていたため、2010年代に入り急激な円安誘導を行って輸出を回復させた。 | 3. 国内市場の規模に限界があったため、海外市場をターゲットとした輸出主導型の経済成長戦略をとった。 | 4. 1980年時点で既に輸出品の半数以上が機械類であったため、その高い技術力を維持することで輸出額を維持した。 |
|--|---|--|--|
- 問9 アジアで見られる季節風（モンスーン）の仕組みや影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 大西洋から一年中一定の方向に吹き続けるため、季節による降水量の変化が少ない | 2. 太平洋の寒流の影響を強く受けた風が、アジア全域を一年中乾燥させる | 3. チベット高原から吹き下ろす乾燥した風が、東南アジアに夏の大雨を降らせる | 4. 夏は海から陸へ、冬は陸から海へと、季節によって吹く方向が変化する |
|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|
- 問10 日本やドイツの統計において、二〇一〇年から二〇二三年にかけて、国内総生産（GDP）が一定の水準を維持または向上しているにもかかわらず、エネルギー国内供給量が減少傾向にある理由として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 国内総生産（GDP）の数値が経済の衰退を示しており、国内の工場がすべて海外へ移転してしまったことでエネルギーが不要になったため。 | 2. 人口が急激に増加したことで、食料生産に予算を集中させる必要が生じ、エネルギーの供給に回す資金が不足しているため。 | 3. 出生率の上昇にともなって若年層の人口が増加し、将来の資源不足を懸念して国全体でエネルギーの使用を厳しく制限しているため。 | 4. 省エネルギー技術の開発・導入が進んだほか、産業構造がエネルギーを大量に消費する重化学工業からサービス業などへ移行したため。 |
|---|---|---|--|
- 問11 インドのガンジス川流域における農業について、年間の降水量が豊富で水が得やすい下流域において、人々の主食として盛んに栽培されている作物を次の中から選びなさい。 (2021年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|------|-------|
| 1. 稲（米） | 2. 綿花 | 3. 茶 | 4. 小麦 |
|---------|-------|------|-------|
- 問12 1970年代から急速な工業化を遂げ、高い経済成長を実現した国や地域は、新興工業経済地域（NIES）と呼ばれます。アジアNIESに含まれる国や地域の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------------|------------------------------|
| 1. 韓国、台湾、香港、シンガポール | 2. タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム | 3. 日本、韓国、中国、インド | 4. オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダ |
|--------------------|-------------------------|-----------------|------------------------------|
- 問13 インドネシア、タイ、ベトナムなどの国々が位置する地域において、加盟国間の経済成長や地域の安定を目的として結成された「地域協力」の組織を何と呼びますか。正しい名称を選択してください。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 1. 主要20か国・地域会議 | 2. アジア太平洋経済協力会議 | 3. 東南アジア諸国連合 | 4. 国際連合教育科学文化機関 |
|----------------|-----------------|--------------|-----------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 経済成長に伴い拡大する現地の市場で製品を効率よく販売し、輸送費などのコストも削減するため。	多国籍企業が新興国に進出する背景には、人口増加や経済発展によって将来的に大きな消費が見込める「市場」としての魅力があります。現地で生産を行うことで、完成品を輸出する際にかかる輸送費や関税を抑えることができ、現地の消費者のニーズに合わせた製品を素早く供給することが可能になります。また、先進国に比べて安価な労働力を活用し、生産コストを抑える狙いもあります。
問2	答え 2 小麦	中国では「南稻北麦」という言葉があるように、降水量の多い南部では米（稲作）が、降水量の少ない北部や中東部では小麦（畑作）の栽培が盛んです。自然環境の条件に合わせて、アジア州の主要な生産地としての役割を果たしています。
問3	答え 3 天然ガスの輸出割合が約半分を占めるなど資源輸出の重要性は残るが、機械類などの工業製品の割合も着実に高まっている。	インドネシアやマレーシアなどの国々では、石油や天然ガスといった鉱産資源が依然として経済の重要な柱となっています。統計上、天然ガスの輸出割合が高い水準を維持しているケースも見られますが、並行して電気機器や輸送機械などの工業製品の輸出割合も拡大しており、産業の多角化が進んでいることがわかります。一方で、石油の輸出割合については、国内需要の増加や産出量の変化により、1980年当時と比較すると総額に占める割合は低下し、半分以上となっているのが一般的です。
問4	答え 2 外国企業の工場を誘致するなどして、付加価値の高い製品を輸出できるようになった。	かつてのマレーシアは、天然ゴムや原油、すずなどの原材料輸出に頼る経済構造でしたが、政府が外資系企業の誘致を積極的に行ったことで、テレビや電子部品などの機械類の製造が発展しました。その結果、原材料をそのまま売るよりも高い利益（付加価値）が得られる工業製品が輸出の中心となりました。輸出総額が単純に10倍になったというデータや、資源の枯渇、農業の消滅といった事実はこの統計変化の直接的な説明として適切ではありません。
問5	答え 4 イスラム教	西アジアに位置するアラブ首長国連邦などの国々では、砂漠という厳しい自然環境の中で生まれたイスラム教が、単なる信仰の対象にとどまらず、人々の食事や礼拝の習慣、さらには法制度にいたるまで、社会生活のあらゆる側面の基盤となっています。ブルジュ・ハリファのような近代的な高層ビルが立ち並ぶ都市部においても、この宗教的背景は色濃く反映されています。
問6	答え 2 一人っ子政策	中国では1949年の建国以降、公衆衛生の改善などにより人口が急増しました。これによる食料不足や資源の枯渇を懸念した政府が、1979年から法的・行政的な手段を用いて人口増加を強力に抑制するために導入した仕組みです。現在は、この政策がもたらした少子高齢化への対応として、子どもの数に関する制限は緩和・撤廃されています。
問7	答え 1 インド	アジアの大国であるインドは、日本と比較して労働者の平均賃金が月額1,000ドル未満と非常に低く、企業にとって安価な労働力を確保しやすい環境にあります。このようなコスト面での利点が主な要因となり、製造業を中心とした日本企業の進出数が1980年代半ばから2010年代にかけて約6倍以上に急増しました。
問8	答え 3 国内市場の規模に限界があったため、海外市場をターゲットとした輸出主導型の経済成長戦略をとった。	韓国は日本と同様に資源が乏しく、また自国の市場規模も限られていたことから、原材料を輸入して製品を加工し、それを海外へ売る加工貿易や輸出主導型の経済発展を重視しました。この戦略によって、機械類などの工業製品を世界中に輸出できるようになり、1980年から2018年にかけて総輸出額を劇的に増加させることに成功しました。
問9	答え 4 夏は海から陸へ、冬は陸から海へと、季節によって吹く方向が変化する	季節風は、大陸と海洋の温まりやすさ（比熱）の違いによって生じます。夏は大陸の温度が海よりも早く上がるため、気圧が低くなった大陸側へ向かって、インド洋などの海側から湿った空気が流れ込みます。これにより、アジアの多くの地域で夏に降水量が多くなる傾向があります。
問10	答え 4 省エネルギー技術の開発・導入が進んだほか、産業構造がエネルギーを大量に消費する重化学工業からサービス業などへ移行したため。	先進国では、経済成長とエネルギー消費を切り離す「デカップリング」と呼ばれる現象が見られます。これは、エネルギー効率の高い家電や生産設備の普及、さらには産業の中心が製造業から知識集約型のサービス業へとシフトすることで、経済活動を維持しながらも、環境負荷や資源消費（エネルギー供給量）を低減させることが可能になっているためです。出生率の低下や人口減少も影響しますが、経済規模（GDP）との対比で考える場合、技術革新と産業構造の変化が主な要因となります。
問11	答え 1 稲（米）	インドの農業は降水量の違いによって栽培される作物が明確に分かれています。ガンジス川の下流域やインド東部、沿岸部などの年間降水量が1000mmを超える雨の多い地域では、生育に多量の水を必要とする稲の栽培が盛んに行われ、人々の主食となっています。これに対し、降水量の少ない乾燥した北西部では小麦、デカン高原では綿花の栽培が中心です。
問12	答え 1 韓国、台湾、香港、シンガポール	1970年代からアジアで急速に工業化が進んだ4つの国と地域（韓国、台湾、香港、シンガポール）を指します。これらは発展途上国の中での経済発展の先駆けとなり、日本に次ぐ工業拠点として国際社会での地位を高めました。選択肢にある日本はすでに先進国の段階にあり、中国やインド、タイなどはNIESの後に続いて成長した国々です。
問13	答え 3 東南アジア諸国連合	この組織は1967年に結成され、アルファベットではASEANと表記されます。東南アジアの国々が協力し合うことで、経済的な発展だけでなく、紛争の回避や政治的な安定を図ることを大きな目的としています。冷戦期の対立を背景に誕生しましたが、現在は域内の関税撤廃などを進める経済共同体としての側面も強めています。